

国際政治学

講義9

戦争原因の3つのモデル

早稲田大学

政治経済学術院

栗崎周平

戦争原因の説明モデル

【戦争パズルへの解としての戦争原因モデル】

- 平和解決の原則的存在は、それが常に達成可能であることを意味しない
- 原則的に常に存在する平和解決の実現を阻害する機構
- 「政治の失敗」としての戦争
 1. 不確実性
 2. 争点分割(不)可能性
 3. コミットメント問題

国際政治学

講義9-1

戦争原因の3つのモデル ～戦争原因としての不確実性～

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

戦争原因としての不確実性

【平和解決達成のための条件】

「平和解決の存在」と、「争点の分割可能性」は、平和解決達成が常に可能であることを意味しない

戦争原因としての不確実性

【平和解決達成のための条件】

「平和解決の存在」と、「争点の分割可能性」は、平和解決達成が常に可能であることを意味しない

【戦争原因としての不確実性・情報の欠如】

1. 国際紛争において、 S_1 あるいは S_2 の双方の政府が、平和解決が存在する位置を理解
2. バーゲニング・モデルにおいて、平和解決が可能な範囲の「大きさ」と「位置」は、 S_1 の戦争利得 $p - c_1$ と S_2 の戦争利得 $1 - p - c_2$ の値を理解する必要

戦争原因としての不確実性

戦勝確率 p

S_1 が勝つ確率

- 戦争の結果の決定される新しい領土配分
- 国力や軍備状況、兵力運用、軍事技術、戦闘能力

戦争コスト c_i

S_i の戦争コスト

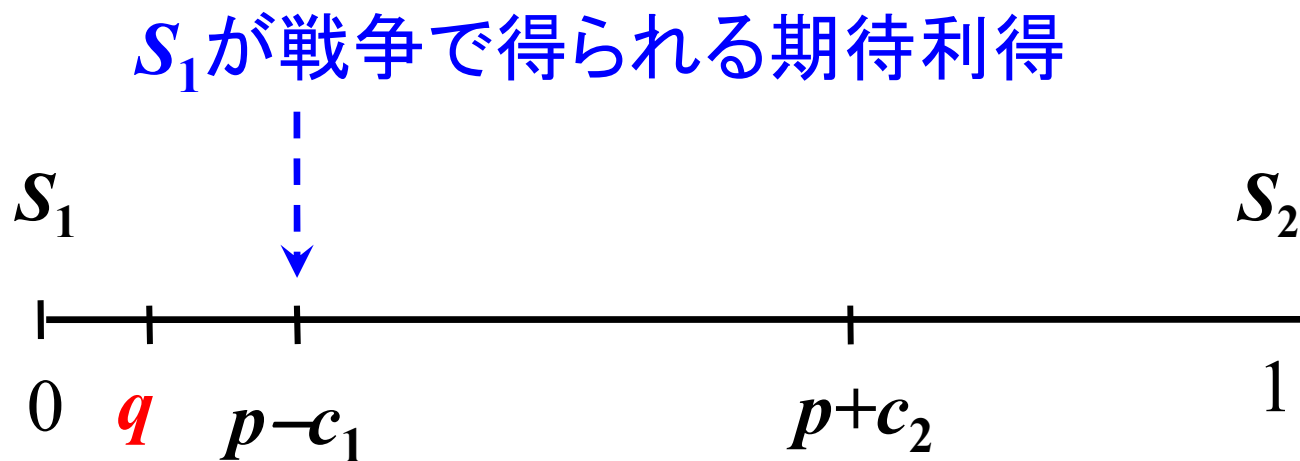
- 戦争コストに耐える政治意思や政治的覚悟
- イデオロギー、世論、政治体制、係争事案の重要性

これら紛争解決に必要な情報は「私的情報」

⇒ 国際紛争は「不完備情報ゲーム」

戦争原因としての不確実性

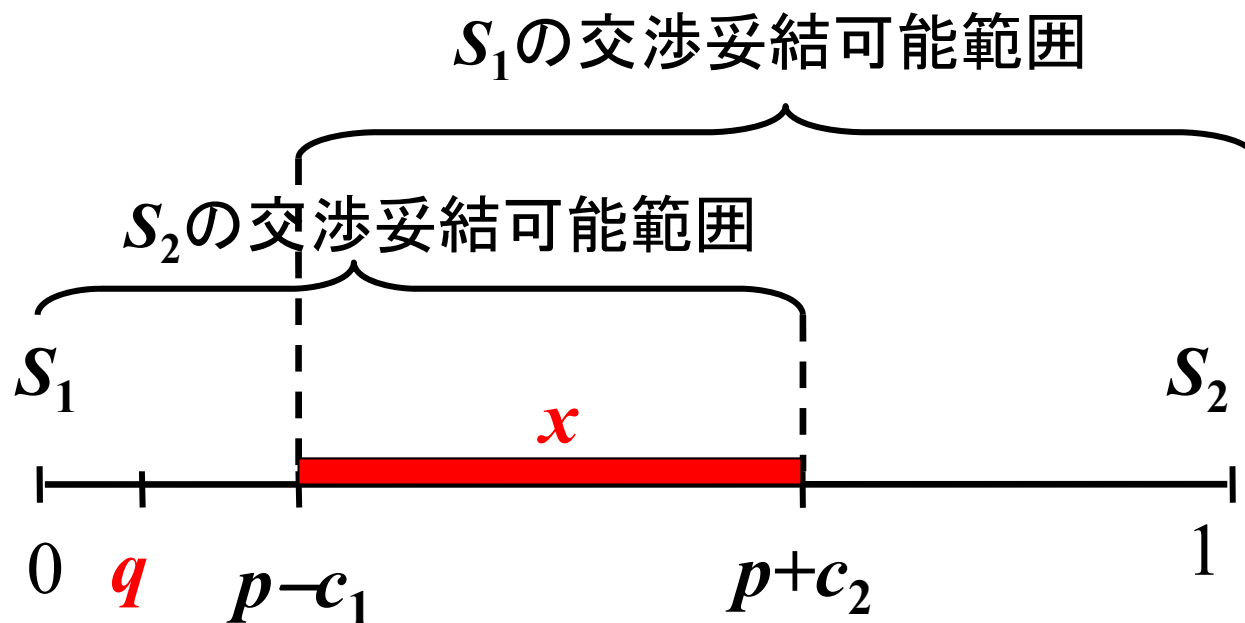
この戦略的環境では、現状 q は S_1 の交渉妥結範囲外
⇒ S_1 は戦争を起こしてまでも現状を変更する動機を持つ



戦争原因としての不確実性

- この戦略的環境では、現状 q は S_1 の交渉妥結範囲外
⇒ S_1 は戦争を起こしてまでも現状を変更する動機を持つ
- この国際紛争における平和解決可能範囲は

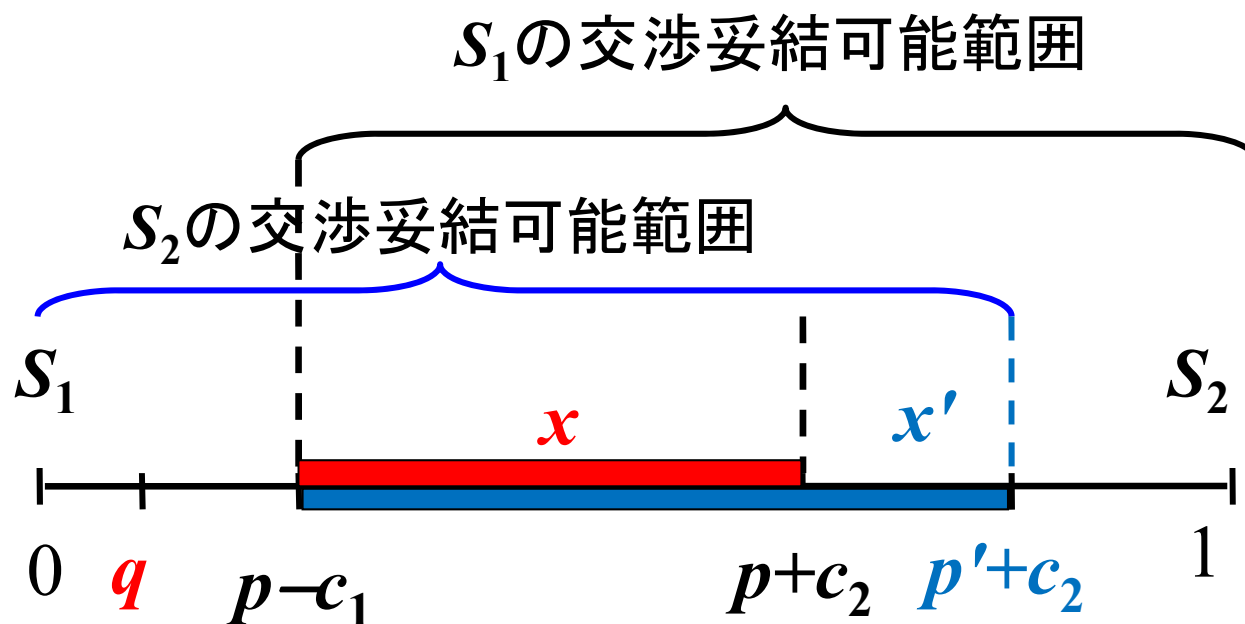
$$x \in [p - c_1, p + c_2]$$



戦争原因としての不確実性

【 S_1 が S_2 の戦争利得を $p' + c_2$ と過少評価した場合】

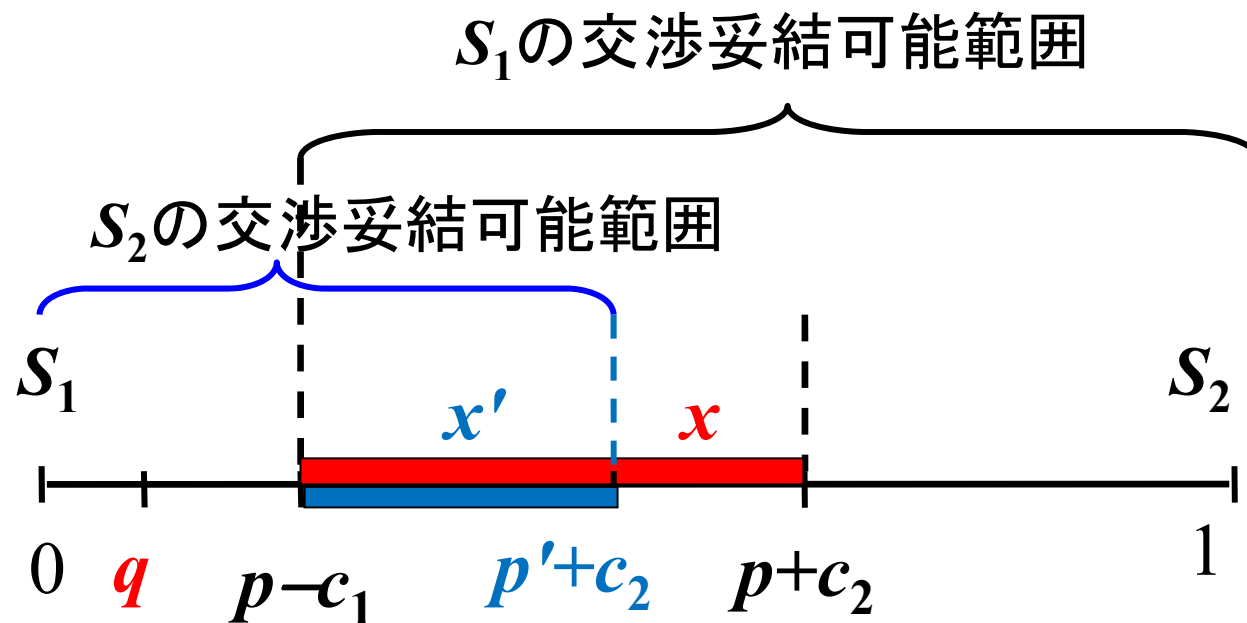
- S_2 は $p' + c_2$ まで譲歩できると誤認し、 S_1 は x' を要求
- しかし $1 - x' < 1 - p' - c_2 \Rightarrow S_2$ は開戦の動機を持つ



戦争原因としての不確実性

【 S_1 が S_2 の戦争利得を $p' + c_2$ と過大評価した場合】

- S_1 は x での交渉妥結は不可能と判断し、 x' を提示
- S_2 はこれを受け入れるが、 S_1 にとっては国益の損失



戦争原因としての不確実性

【不確実性による政治の失敗】

- S_2 の戦争利得の過少評価は、戦争の危険性を生む
- S_2 の戦争利得の過大評価は、不必要な領土割譲につながり、国益を損失

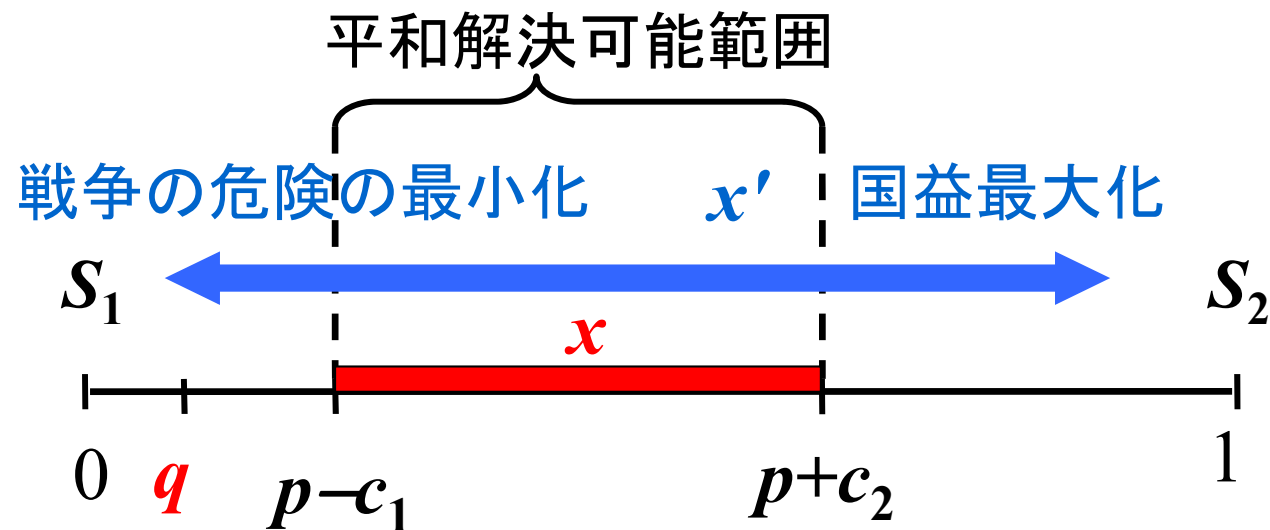
【 Risk-Return Trade-Off 】

国際紛争における交渉での相反する利益とジレンマ

- 戦争の危険性を最小化 ⇒ 国益の損失
- 国益の最大化 ⇒ 戦争の危険性

戦争原因としての不確実性

【 Risk-Return Trade-Off 】



【命題】 情報の失敗としての戦争

「国益の最大化」という制約の下で「戦争の危険性を最小化」

⇒ 不確実性の払拭が必要条件

⇒ 不確実性が残っていれば戦争のリスクは常に存在

国際政治学

講義9-2

戦争原因の3つのモデル ～戦争原因としての不確実性～

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

もう一つの情報の失敗

【論点】

情報の失敗(＝不確実性)が戦争の原因

⇒情報交換による不確実性克服の試みと戦争の危険性

【視点と国際政治の「読み方」】

国際紛争における情報交換(＝コミュニケーション)の過程としての国際危機

⇒国際危機におけるコミュニケーション過程の特性が、もう一つの戦争原因を生み出す

【含意】

「病気克服のための治療が、病状を悪化」

もう一つの情報の失敗

国際危機とは:

- 国際紛争において、係争国が武力行使を示唆・威嚇することで、戦争の危険が高まっている局面
- 外交交渉・軍事的威嚇・軍事力の動員・部隊の展開・限定的武力行使・海上封鎖など
 1. 来たるべき武力衝突に向けての準備
 2. バーゲニングにおける戦略的環境のパラメータである、**軍事能力(p)**や**政治意思(c_i)**についてコミュニケーションするための**言語**

もう一つの情報の失敗

【国際危機のパズル】 なぜ、国際危機なのか？

もう一つの情報の失敗

【国際危機のパズル】 なぜ、国際危機なのか？

- 国際危機は情報伝達(＝外交交渉)の一つの便利な政治土俵
- p や c_i についての外交声明・政治表明は誰でも出来るチープ・トーク
- 国際危機には、コストがかかる「国際政治過程」
 - 【事前コスト】軍事力動員、経済的機会費用、政治リスク
 - 【事後コスト】武力衝突に発展するリスク、撤退に伴う国内政治批判、外交的屈辱、国際的評価の低下

もう一つの情報の失敗

国際危機における目的:

1. 戦争の回避: 私的情報開示による不確実性の払拭
2. 国益の追求: 不利な情報の隠匿や偽り
(=危機外交の有利な展開)

- 二つの相反する目的

⇒ S_1 や S_2 によるメッセージの**信憑性の問題**を創出

【国際危機における信憑性】

⇒ 武力行使の威嚇を伝達するとき、相手国がそれを信じるとき、このメッセージは信憑性をもつ

もう一つの情報の失敗

なぜ信憑性が重要なのか？

- 実際に武力行使への能力と覚悟を持っていたとしても、相手国が信じなければ、**軍事力**や**政治意思**は伝わらない
- 軍事力や政治意思は直接観察できない私的情報
- 武力行使への能力も覚悟がない「こけ脅し **Bluff**」であっても、相手国が信じてしまう可能性
 - ⇒ **軍事力**や**政治意思**を偽るインセンティブ
 - ⇒ 国際危機におけるコミュニケーションが一層困難

不確実性克服のための瀬戸際外交

【問い】

虚偽報告のインセンティブがある中で、どのように信憑性を確保し、不確実性に由来する戦争の危険性を回避できるのか？

不確実性克服のための瀬戸際外交

【問い】

虚偽報告のインセンティブがある中で、どのように信頼性を確保し、不確実性に由来する戦争の危険性を回避できるのか？

【答え】

1. 瀬戸際外交 (Brinkmanship Diplomacy)
2. 政治的操作：観衆費用の喚起
3. 軍事力の操作： 軍備増強・武力展開・兵力動員

国際政治学

講義9-3

戦争原因の3つのモデル ～国際危機と不確実性の克服～

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

もう一つの情報の失敗

【瀬戸際外交における武力行使の意図伝達】

「瀬戸際外交」とは

国際危機において、**軍事的挑発**を通して両国を戦争の「**瀬戸際**」に連れ出すことによって、**武力行使への覚悟**を示す

- 「瀬戸際」は、**デリケートなバランス**の上に成り立つ
- **偶発的に、不注意**から、「瀬戸際」から戦争という「**奈落**」に落ちる可能性がある

もう一つの情報の失敗

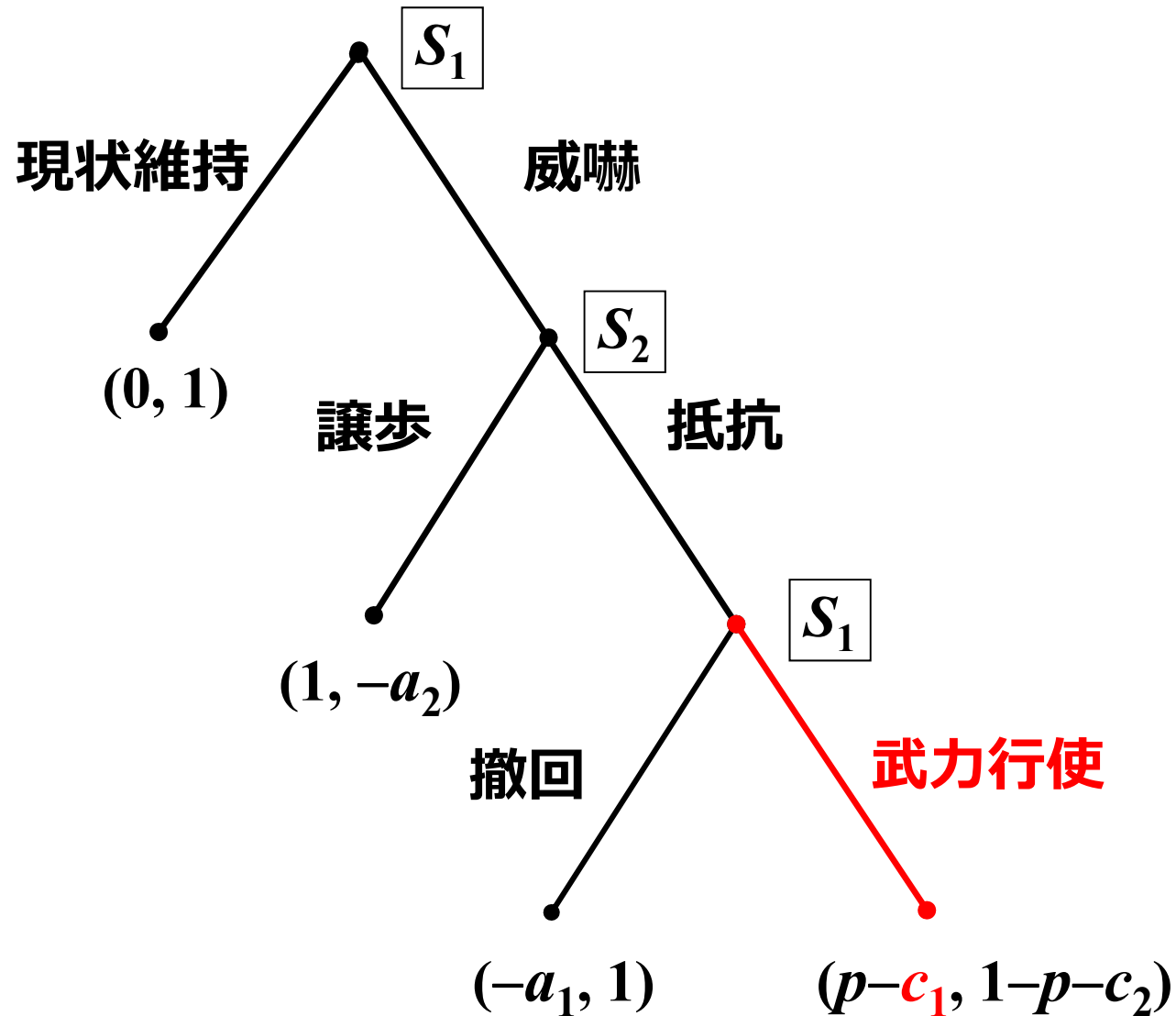
【瀬戸際外交における武力行使の意図伝達】

瀬戸際外交の過程

- 徐々に戦争リスクを高める
- 最終的には「降参」か「戦争の勃発」のいずれか
- 戦争リスクを受け入れる「我慢比べ」となる

⇒ 戦争リスクの受容が、信憑性のある威嚇とBluffとを峻別

不確実性克服のための瀬戸際外交



不確実性克服のための瀬戸際外交

瀬戸際外交の例

- 北朝鮮の核実験・ミサイル(衛星)の発射
- キューバ危機におけるアメリカのデフコン2(戦争準備態勢)への引き上げ
- ベトナム戦争末期におけるニクソン大統領によるソ連に対しての核攻撃臨戦態

不確実性克服のための政治問題化

観衆費用を用いた武力行使の意図伝達

【観衆費用】

国際的なコミットメントを撤回したときに被る政治的成本

【国際危機における観衆費用】

武力行使の威嚇を撤回したときに被る政治的成本

不確実性克服のための政治問題化

観衆費用を用いた武力行使の意図伝達

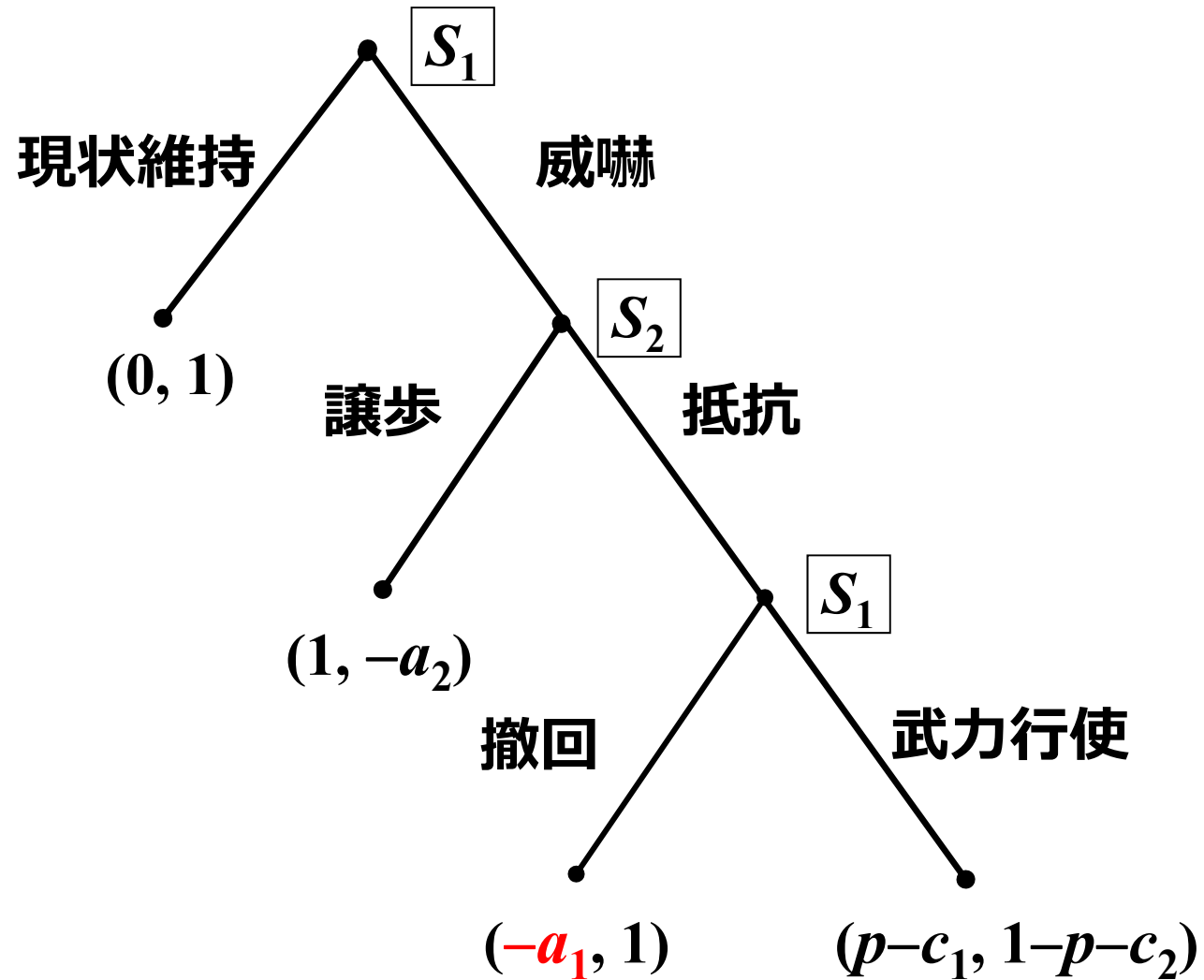
【観衆費用のメカニズム】

観衆費用が大きいとき、国際危機における武力行使の威嚇を撤回することが政治的に困難

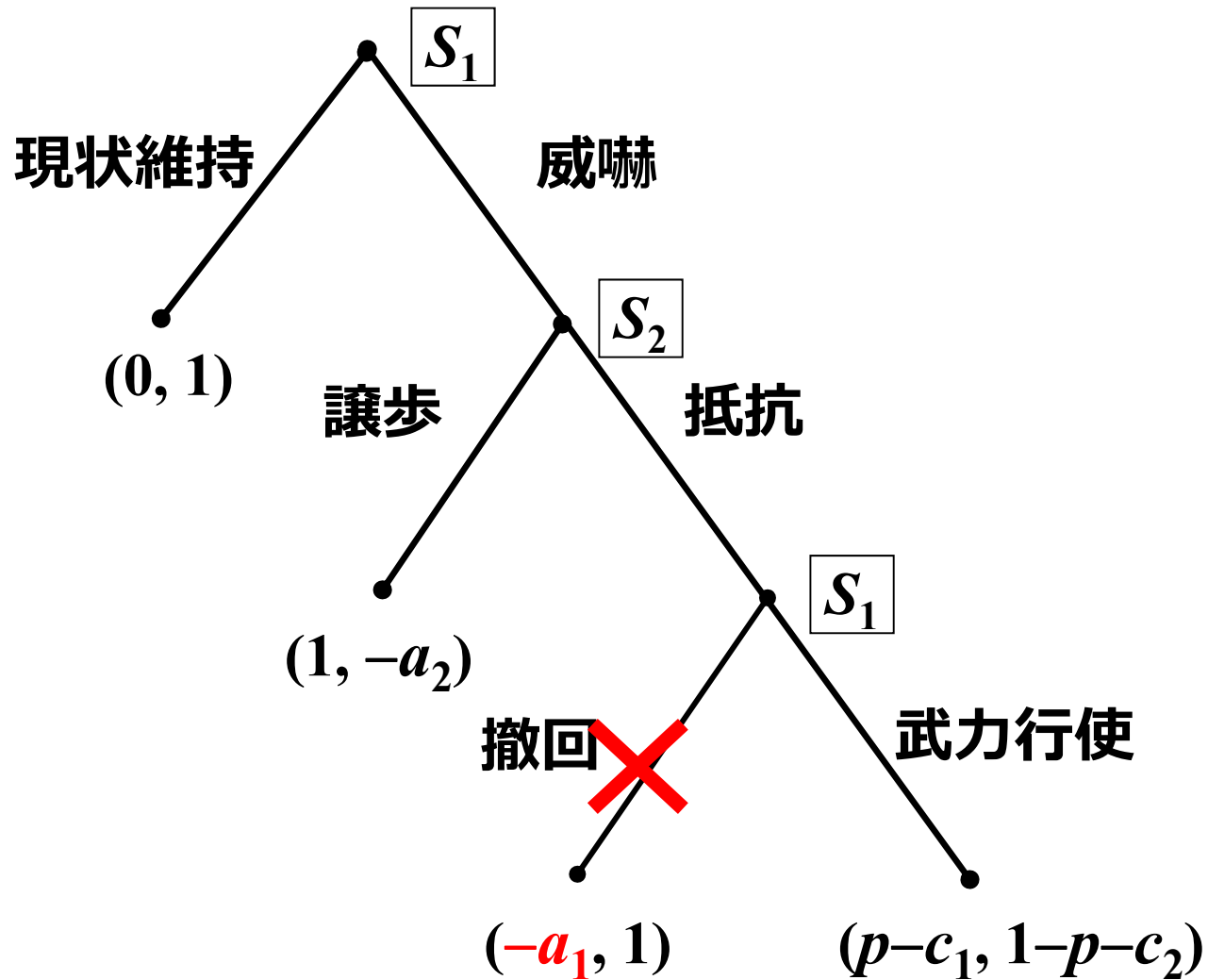
⇒ 自らが譲歩する「能力」を封じることにより等しい

⇒ 観衆費用の喚起が信憑性のある威嚇とBluffとを峻別

不確実性克服のための政治問題化



不確実性克服のための政治問題化



不確実性克服のための政治問題化

観衆費用を用いた武力行使の意図伝達

【観衆費用の喚起】

武力行使の威嚇を**政治・外交声明**として伝達

【使用例】**キューバ危機**におけるケネディ大統領のテレビ演説



不確実性克服のための政治問題化

観衆費用を用いた武力行使の意図伝達

武力行使の威嚇を撤回することによる政治コストの例

- 国際的なコスト
 - － 国家や政府の威信を傷つける
 - － 政治家個人の信憑性を傷つける
 - － 次回の外交声明や武力の威嚇の信憑性を損なう
- 国内的なコスト
 - － 野党の政府批判を招く
 - － 支持率が下がる
 - － 選挙に負ける
 - － 軍部の信任を失う

不確実性克服のための政治問題化

観衆費用を用いた武力行使の意図伝達

【使用例】

- 湾岸戦争におけるブッシュ大統領の“This will not stand”
- シリアへの介入を巡るオバマ大統領のコミットメント撤回への批判

【不使用例】

- 朝鮮戦争への中国による介入の威嚇の失敗
- ベトナム戦争末期におけるニクソン大統領によるソ連に対しての核攻撃臨戦態

不確実性克服のための軍事動員

国際危機における軍事動員

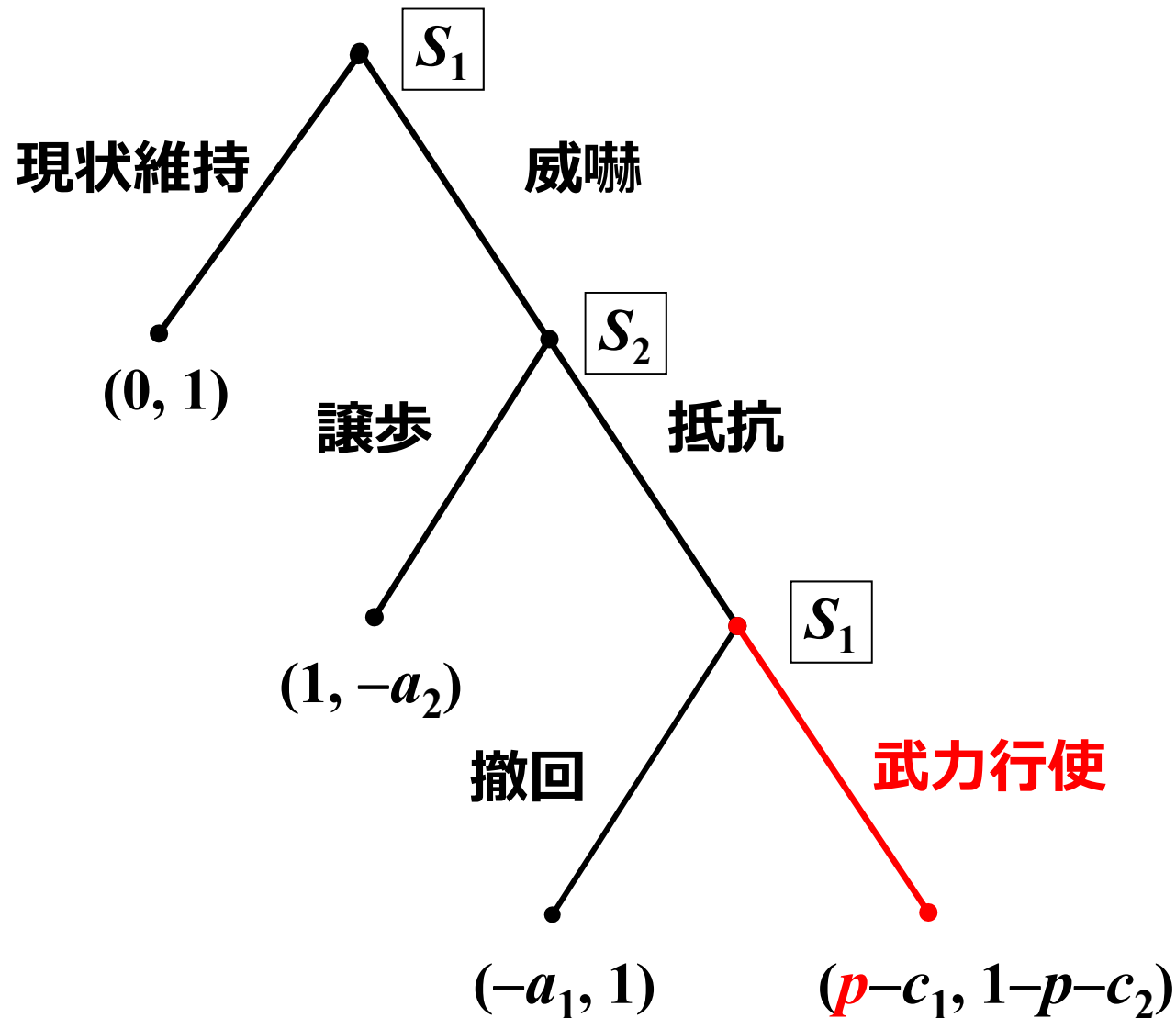
- 国際危機における軍備増強・軍事動員・武力の展開
- 武力衝突が相手国にとって非常に高コスト・高リスクであることをデモンストレートする目的

不確実性克服のための軍事動員

【軍事動員による武力行使の意図伝達のメカニズム】

1. 軍備増強により軍事能力 p を向上
⇒ 相手国の戦争期待利得を低減
2. 軍事動員に伴う政治的・財政的なコスト c_i を支払う
⇒ 武力行使に対する強い政治意思を顕示
3. 武力の展開により、戦争コスト c_i を事前支払
⇒ 実際の武力行使のコストを相対的に低減

不確実性克服のための軍事動員

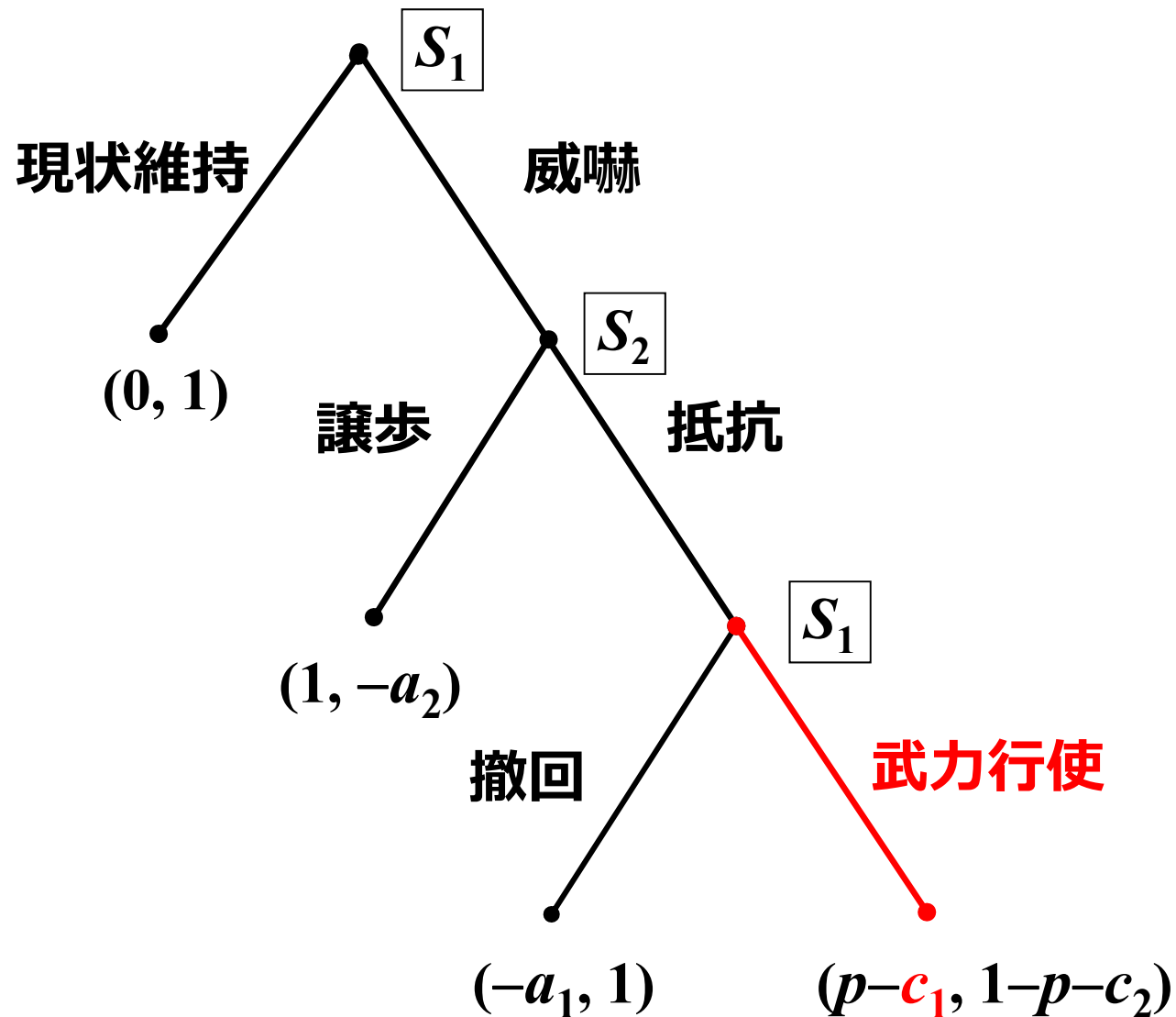


不確実性克服のための軍事動員

【軍事動員による武力行使の意図伝達のメカニズム】

1. 軍備増強により軍事能力 p を向上
⇒ 相手国の戦争期待利得を低減
2. 軍事動員に伴う政治的・財政的なコスト c_i を支払う
⇒ 武力行使に対する強い政治意思を顕示
3. 武力の展開により、戦争コスト c_i を事前支払
⇒ 実際の武力行使のコストを相対的に低減

不確実性克服のための軍事動員



不確実性克服のための軍事動員

【軍事動員による武力行使の意図伝達の例】

- ・ イラン海軍によるホルムズ海峡での演習

地図出典: *The World Factbook* 2013-14. Washington, DC: Central Intelligence Agency, 2013



不確実性克服のための軍事動員

【軍事動員による武力行使の意図伝達の例】

- シリア内戦： 地中海への巡航ミサイル駆逐艦の増派
- 湾岸戦争： 第七艦隊のペルシャ湾への派遣
- 台湾海峡危機： 空母打撃群(第七艦隊)2個の派遣
- キューバ危機： デフコン2(戦争準備態勢)への引き上げ

不確実性克服のための3つの機構

国際危機における3種類のコミュニケーション

⇒ 信憑性のある軍事威嚇とBluffを峻別する機構

瀬戸際外交

- 核兵器・核戦争に伴う

政治的操作（観衆費用）

- 通常の国際危機
- Hands tying シグナル （退路を断つ／背水の陣）

軍事力の操作（軍事動員）

- 通常の国際危機やグランド・ストラテジー
- Sunk cost シグナル （埋没コスト）

もう一つの情報の失敗

国際危機における3種類のコミュニケーション

- 戦争リスクの操作(瀬戸際外交)
- 政治コストの操作(観衆費用)
- 軍事力の操作(軍事動員)

⇒ 不確実性という戦争の原因を克服するメカニズム

⇒ これら解決策自体が新しい戦争の原因を生み出す

【情報の失敗】

いずれのメカニズムも戦争の危険性を高める副作用

- 瀬戸際外交 = Slippery slope
- 観衆費用 = 開戦への「ロックイン」
- 軍事動員 = 開戦への誘引(開戦回避の困難性)

戦争原因としての不確実性(まとめ)

【第一の原因】

- 軍事能力 p 政治意思 c という私的情報に基づく不確実性
- ⇒ 平和的解決の範囲や大きさ位置が不明
 - ⇒ Risk-return trade off による交渉の失敗(=戦争)

【第二の原因】

- 不確実性を克服する方策としてのメカニズム
- ⇒ 情報伝達のためには、信憑性問題の克服が必要
 - ⇒ 信憑性確保には、高コストのメカニズムが必要
 - ⇒ 戦争の危険性を増大

戦争原因としての不確実性(まとめ)

【第一の原因】

軍事能力 p 政治意思 c という私的情報に基づく不確実性

⇒ 平和的解決の範囲や大きさ位置が不明

⇒ Risk-return trade off による交渉の失敗(=戦争)

【第二の原因】

不確実性を克服する方策としてのメカニズム

⇒ 情報伝達のためには、信憑性問題の克服が必要

⇒ 信憑性確保には、高コスト・高リスクのメカニズムが必要

⇒ 戦争の危険性を増大

【理論モデルの意義】

- 軍事的挑発、国際危機の公然化、軍事動員などといった、危機外交の諸相も、同じロジックで統一的に説明
- 危機外交の様々な問題は、戦争原因の問題に集約